

2011年3月11日に発生した三陸沖の太平洋を震源とするマグニチュード9.0の地震により、東北・関東地方の広い範囲において、宅地盛土の崩壊や擁壁の損傷などこれまでにない甚大な被害が発生した。なかでも、宮城県仙台市の盛土造成地では宅地擁壁の被害が顕著であり、宅地地盤の滑動すべりに伴う宅地擁壁の崩壊・崩落や大きなクラック等が発生した。なお、これら被害箇所の多くでは1978年宮城県沖地震の際にも擁壁被害が発生している。

出典：「東日本大震災合同調査報告書編集委員会：東日本大震災合同調査報告 共通編3 地盤災害」



図-1 玉石積擁壁の隅角部の崩壊（宮城県）



図-2 宅地盛土擁壁の崩壊（青森県）



図-3 玉石積擁壁の崩壊（宮城県）



図-4 宅地地盤の変形に伴う擁壁の崩壊（宮城県）

写真：「東日本大震災合同調査報告書編集委員会：東日本大震災合同調査報告 共通編3 地盤災害」